

令和3年度 第2回 総合教育会議 会議録（要約）

期 日 令和4年2月2日（水） 9時30分から11時08分

場 所 雲仙市 吾妻町ふるさと会館 2階 研修室1

出席者 市長
金澤秀三郎市長
教育委員会
下田和章教育長、前田眞一教育長職務代理者
仁禮智加子委員、駒田義弘委員、永岡悦子委員

事務局 市長部局
松橋総務部長、松下政策企画課長
教育委員会事務局
富永教育次長、小松総務課長、草野学校教育課長
堀田生涯学習課長、加藤スポーツ振興課長
森田総務課参事補（記録）

会議日程

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
雲仙市教育行政の現状と課題について
- 4 その他
- 5 閉会

【 9 : 3 0 開会】

1 開会

2 市長あいさつ

金澤市長 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材を学校・家庭・地域及び行政が一体となって育成していくためには、子どもたちのための教育・生活環境の整備などに加え、子どもの心に寄り添い、見守り育む土壌づくりに取り組むことが必要であり、そのためにも、この総合教育会議において教育委員の皆様方と問題意識を共有し、力をあわせて子どもたちのためのさまざまな施策を進めていく必要があると考えている。本日の会議が実りあるものとなるよう、よろしくお願いしたい。

3 議事事項

市長の指名により富永教育次長が議事進行を行う。

議事 雲仙市教育行政の現状と課題について

※事務局から、雲仙市教育行政の現状と課題について説明。

富永教育次長 これからご意見を伺いたい。前田委員。

前田教育長職務代理者 最近妄想ばかりしてるのだが、学校についても統廃合を考えることがあって、だんだん生徒が減って行って部活動の運営が難しくなってきた。

やはり、ゆくゆくは統合が必要と思うが、例えば雲仙中学校があつて、雲仙中学校のA校B校C校というふうに分けて、必要な時に集まれるという形をとったらどうかと思っている。部活動も、チームスポーツが出来ないので、例えばサッカーがやりたい生徒は集まって練習するというような方向で行ったらどうかと思っている。

いつも一つの学校で勉強するのではなく、それぞれの学校で勉強して、必要な時に集まるという形はどうかと思っている。

仁禮委員 この資料を読んで、やはり統廃合を考えていくべき時期に来ているのではないかと感じた。

最近ニュースでも、教員の不足というのが、活字として載っている。統廃合をすれば先生の数も減ってくるので、学校が減れば財政の逼迫もなくなると思った。

全ての小学校中学校が避難場所になっているのか、そのあたりを教えていただきたい。

小松総務課長 市内の小・中学校の体育館が、避難場所となっているので、確かに統廃合を考える上ではそこをどう取り扱うかということが大きな問題の一つでもある。

駒田委員 統廃合のこと、やはりこれは大事なことになると思いながら聞いていたが、中学校では、全教科の教員の配置がなされていないという現状を考えたときに、果たして教育を子どもに提供するというのには、当てはまってるのかと思うこともある。

そういったことを考えたときには、適正規模とか適正配置が大事になってきて、そこを基準に、子どもの力を高めるためにはというところに進んでいけないといけない。

もう一つ、施設の老朽化のこと、校舎が古くなったからけがをした、そういうことだけは絶対させたらいけないという思いがある。

草野学校教育課長 市内には中学校が7校あるが、全ての技能教科の免許を持った教科教員がそろっている学校はない。

学級数の関係で教員定数が決まるが、学級数が少ないために教員の数全ての教科を満たす数に足りず、免外解消非常勤免許を持った非常勤を配置する。

もっと学級数が少なくなれば、免許外の指導をする教員を校内で配置をするという点、もう一つは、兼務ということで二つの学校を掛け持ちするという配置をせざるを得ないような学校とか、そういう現状がある。

少なくとも教員が15名配置できないと、全ての教科を配置するというのは難しいと思っている。そのためには、各学年3学級の9学級、通常学級があるような規模が適正化というふうに考えているところである。9学級に達している学校が、現在ない。

富永教育次長 すべての中学校で9クラスに達していないということだが、一番大きい国見中でどれぐらいなのか。。

草野学校教育課長 国見中が1番大きいのだが、1年生が2クラス、2年生3年生が3クラスの8クラスということで、あと1クラス足りない状況ということである。

金澤市長 学校施設老朽化の説明の中で2億6千万といていたが、毎年予算編成をするときに、学校施設の長寿命化という費用の多さに、何とかならないのかと思うところがある。学校施設が老朽化して子どもたちにけがをさせるようなことがあってはならないことだとは思いますが、例えば旅館とかホテルとかが、全体の改築はできないが一部は使えるので、減築というか実質的に変えてしまうという考え方を国も認めている。そのような考え方は、学校施設では使えないのか。

小松総務課長 空いている教室を、例えば小人数に分けて授業を分散して行ったり、いろんな使い方をしてるから、完全に空いている教室はあまり学校にはない。

最近、特別支援学級が増えてる関係で、教室を二つ、三つに分散して活用するような形も増えてきている。

総務課としては、何とか費用を抑えられないかということで、プールについては今後大規模な改修はしないという方針でやっているんで、その分の費用が少し抑えられてきている。

金澤市長 別の観点から、学校施設の改修に関する費用が削減されたと仮定して、学校教育に予算を回せれば、やりたいと思った事業というのは実際にあるのか。

小松総務課長 ICT教育を進める上で、例えば、ICT支援員といって学校の先生方を補佐するような形で、外部委託等が出来ないかとか、そういった人材を配置出来ないかという部分に少し厚く配分ができるのではないかと考えている。

金澤市長 国見中学校は60年とあったが、今後、現段階でどうするか計画はあるのか。

小松総務課長 完全な建て替えまでまだ計画はしていないが、長寿命化のための改修を進めていこうと思っている。

金澤市長 通常、建物の60年といたら、長寿命化というよりも、もう寿命が来ているのではないと思うが、そのうえで長寿命化というのは、全体の方針がそうなっているのか、財政上の制約があってそういう方針になっていると理解した方が良いのか、どちらか。

小松総務課長 国全体の問題で昭和40年代後半から50年代に建てられた学校が多く、それまで60年といわれていた鉄筋コンクリートの寿命を80年に延ばすための長寿命化計画というものが進められている。

金澤市長 全体的に校舎については80年を目途にして長寿命化を図っていくというのが基本的な考え方と理解していいのか。

下田教育長 60年という是相当古い。60年経ったのをあと20年、何とかもちこたえさせたいという国の方針でやっている。

学校施設の老朽化の問題と小規模校化していくことでの子どもたちの教育を受けるための環境が整っていない。いろんな面で、この学校の小規模化と老朽化というのが、一色たんになった課題として出てきている。

小学校以上に中学校の方の統廃合について考えていく時期にきていると考えている。

そこで、来年度から有識者の方の御意見を参考にしながら、これから10年20年先の姿がどうなったら、雲仙市内の学校のあるべき姿かを考えていく。

これまでの統廃合については、地元の保護者の方とか、地域の要望があって、それを大切にするというスタンスで教育委員会はいたが、少しこちらがイニシアティブを取りながら、統廃合について、どんな学校であるべきかということを考えてもらう問題提起をしていかなければいけないと考えている。

永岡委員 不登校の児童のことについて、5人に1人の子どもたちがHSCに、最近の子どもはなってるみたいだけれど、小学校のときから不登校になって、中学校になってもそれが続いている。

その子どもたちがどのような生活をしているか、もし把握していたら教えてほしいということと、少子化でクラブ活動が、例を挙げると千々石中学校と吾妻中学校の野球部が一緒になって、試合に出ていい成績を今挙げていると思うが、そのような方たちの支援の仕方とか、雲仙市にクラブチームが何チーム、どんなクラブチームがあるのかということを教えていただきたい。

草野学校教育課長 不登校の状況について、小学生のときに不登校で中学校に引き続いてる生徒の件ということで、小学校の不登校というのは数としてはそれほど多くない。

多くて、5人とか、年度によって増減するが、2人とか。

不登校は、年間30日以上欠席ということだけれども、そこまではなくとも朝から起きられないとか登校を渋るとかいう、不登校につながる傾向のある児童というのがたくさんいるので、このあたりが中学校に行ったときに不登校になりがちというのがある。

学校には行けなくても、例えば公民館等までは出てこれるということであれば、訪問指導員が公民館で個別指導をする。それが出来なければ家庭訪問をしながら訪問指導をする。

それも、出来なくて、訪問指導員とのコンタクトがとれない子どももいる。ここについては保護者を通して、状況を聞きながら、次のステップへとずっと相談を続けるということで、状況の深刻度によっていろんな対応がある。

回復傾向にある子どもについては、学校に毎朝行ってみる、挨拶だけでもしに行く、別室で授業を受けて昼まで行って帰るとか、だんだん延ばしていったって通常に戻す。

子どもの状況によっては、学校に無理に向けることが心理的に負担になる場合がある、この子どもたちについては、高校をまず考えて、中学校では復帰は出来なくても、高校にはつなげるというような形で、高校以降の復帰を願って支援をするというような形で対応している。

永岡委員 クラブチームがあると思うのだが、雲仙市にどのようなクラブチームがあるのかを教えてほしい。

加藤スポーツ振興課長 スポーツ振興課では、小学生クラブ活動振興会という組織を担当しており、現在50団体。中学生のクラブチームは、小学生クラブ活動振興会に属さないものなので、私が知ってるのはサッカーの1チームではないかと思っている。

前田教育長職務代理者 私が知ってるのは、例えばバレーの女子も千々石と愛野が合同で練習している。国見中学校の生徒たちが、ソフトテニスのクラブチームが出来て、学校が休みの日にクラブチームに行っている。硬式野球のクラブが諫早にあって、千々石とかから行っている子どももいる。

草野学校教育課長 クラブチームについては、私たちの捉え方としては、例えばスイミングクラブ、あるいは諫早市の内村体操教室みたいなアスレチッククラブとかに通ってる生徒もいる。

このような習い事的なものと、そのクラブチーム、この線引きはなかなか出来ない部分で、お金を払って、月謝を払って、会費を払って、そこに所属しているというのは、私たちが把握出来ないいろんな習い事の中にたくさんあると思っている。

仁禮委員 長男が、吾妻中の野球部で最高学年になったとき、部員が足りずに千々石が3名だったので一緒にしないか、3名なら吾妻まで連れてこれるのでということで合併した。4月になって新規で入ってきたら、吾妻はぎりぎり足りた。でも千々石は誰も入ってこなくて3名、中体連を迎えたら、中体連は学校単位だから、千々石は一緒に出来ずに辛かった。人数が取りあえず吾妻で足りてるからということで単独にさせられたので、今後、野球部に限らず他の部活とか、人数が少子化で一部足りないけど合併でできるチームがあったら、中体連も見直していただいて、吾妻千々石の合同チームで野球へ出させてもらったりとか、そういう考えに変えてもらえないかなと思う。

草野学校教育課長 合同チームについてはそのような要望があるということで、県の中体連に申出をずっと続けているところである。

現在は補充合同の形で、足りないところへ2チーム合同までは認められているのだが、もう2チームだけでは組めない状況があって、3チーム合同でないと組めないのも、そういう状況もお願いをしてるが、県の中体連としては認められないという部分があるようだ。

他県では認められているところもあるが、選抜チームを作って強くすることを防ぐためとかいろんな理由があって、中体連がそこから先へ進まない。

駒田委員 不登校に戻ってよろしいか。小学生の場合、数としては少ないけれども、その傾向にある子はたくさんいるのではないかという話があったけれども、かつて、不登校は治る

けれども、ひきこもりは直らないと研修で聞いたことがあって、もう一つは不登校が非行に走った場合の対応は大変になるという話を聞いたことがある。

気をつけておきたいのが、月に1、2回必ず休む。そういう子は具体的に目を配っておかないと30日の線にいくような気がする。

不登校になった場合、今タブレットを1人1台持っているというのは非常にチャンスなのかなと思う。不登校の子どもを、学校につなぐことと、授業のことと。直接、先生とも会えない、ちょっと苦しいとかいう子どもにとっても、いい道具になりそうな期待が持てる。

草野学校教育課長 授業の配信、担任等とのコミュニケーションに、十分使えていく端末と
思っている。

現在、教育委員会にサポートセンター室があって、そこに子どもたちが通ってきている。不登校の子どもたちで、学校に行けないのだけれども、そこでの個別指導の中で、校長先生に相談をして許可を得て、サポートセンター室にタブレットを持ち込んでいいということにしている。これが、家庭とも広がっていく、そこにタブレットは有効ではないかなと私も考えておるところである。

金澤市長 2ページの文章の中に、不登校に対する社会の認識の変化とあるが、それを具体的にどう説明するのかと聞かれた時には、どういう答えになるのか。

草野学校教育課長 国からの通知をもとにしているが、不登校の状態が、必ずしも子どもにとって意義のない状態ではない場合がある。心の疲れとか、子どもの状況によっては、学校に行かないことが、休養となって、これからの人生にプラスになっていく可能性があるという認識が少しずつ広がってきた。

以前は、学校を休むことはずる休みとか悪いことだという認識があって、不登校の子どもたちが肩身の狭い思いをしていたが、積極的な意味がある場合があるということ認識しようというものである。ただし、有意義な時間だったとしても、その間に学校で学べてたはずの学習が出来なかったという、マイナス面があることも十分、考えておこうという通知で、それを表現したものである。

金澤市長 H S Cという言葉があって、この文言は通常使うものなのか。

草野学校教育課長 特別支援教育というか、学校の教員の間で特別支援教育を語るとき、研修等では、一般的に使うような言葉になっている。

金澤市長 例えば、どういう事例が該当するという定義はあるのか。

草野学校教育課長 定義という明確なものはない。

過度に敏感な子どもということで、耳とか、いろんな心、この辺りを言うのだが、例として挙げられているのが、通常のもの音が非常に雑音に聞こえる子どもたちが、数%の割合でいるという状況である。

担任の先生が普通に話している声とか、隣の子どもが普通に話していることが、この子どもには過度に大声に聞こえて、そこにいるのがつらいと思う子ども、この例については市内でも、何人かいるというふうにつかんでいる。

金澤市長 医学的用語ではなく、教育の世界の用語ということか。

草野学校教育課長 これは医学のほうから来たものというふうに受け止めている。

新たに、小児医学界のようなところから、こういう子どもがいる可能性があるので、学校でも注意してくださいと、研修の中で聞いたことがある。

富永教育次長 次に生涯学習課とスポーツ振興課から説明をさせていただきたい。

※事務局から説明

前田教育長職務代理者 スポーツ振興課から出た活動の適正化と組織づくりということで、最近練習時間の休養日を設定されるようになったが、例えば、日曜日が休みとすると、中学生は何をしているかという、ゲームしかない。

e スポーツという名前はいいのだろうけど、ゲームし過ぎるとどうしても目が悪くなる。最近はクラスにかなりの数の眼鏡をかけている、あるいはコンタクトをしている生徒がいる。指導者・保護者等の研修会で、目を休めるというか、近視にならないというような方法を教えていただくような研修会を開いていただければ効果があると思う。

加藤スポーツ振興課長 指導者講習会については、目の部分には触れていなかったのですが、今後そういう部分も講師の先生にお願いをしたいと思っている。

スポーツ医科学講習会については、体を休ませることの重要性とか、朝御飯をきちっと食べるとか、バランスのとれた食事をするとか、そういう部分の講習をしているので、目を休ませるというふうな、お願いもしながら進めていきたいと思う。

金澤市長 自主文化事業振興会の組織の構成と、どうやってプログラムを決められているのかと予算の配分と分かるだけ教えてほしい。

堀田生涯学習課長 雲仙市自主文化事業振興会だが、各町から1人ずつ文化協会の方が出

ている、その構成員の中で、前年度に翌年度にやりたい事業を持ち寄られて、その中で、音楽事業とか、文化事業、子ども向けとか決められている。

大体予算が500万ぐらいで運営している。

金澤市長 構成する文化協会というのは、県も入っているのか。

堀田生涯学習課長 各町の文化協会に所属している会員が自主文化の代表になられている。

金澤市長 雲仙市独自のプログラムには事務方として生涯学習課から誰か出ているのか。

堀田生涯学習課長 生涯学習班の小林が、自主文化事業の事務局と雲仙市文化連盟の事務局をやっている。

金澤市長 どっちかという、行政が主導して筋書きを描いてプログラムを作るというよりは、本当に持ち寄って決めていると認識していいのか。

堀田生涯学習課長 その通りで、各会員が持ち寄られて、会議で決められ、これとこれをやるということで、うちはそのサポートをしているので、自主的に運用されている。

金澤市長 そういう事業の運営の仕方というのは、他の自治体も同じようなやり方なのか。

堀田生涯学習課長 島原市とか南島原市も、諫早市も同じような形でやられている。

ただ、その事務局を外部に出すというのが合併以来の懸案であり、うちは市の職員がやっているが、スポーツ協会みたいに事務局自体を外部に出すかたちがベストと思っている。

金澤市長 例えば外部にその自治体で事務方を委託しているという相手というのは、例としてはどういうところなのか。

堀田生涯学習課長 今手元にはないが、諫早市は直営ではなくて事務事務局を委託されてるのではないかと知っている。

金澤市長 事務局というのは、そういうことを生業としているところに委託しているのか、手作りでしているのか。

堀田生涯学習課長 手作りだと思う。

駒田委員 図書館に勤務していたときに講座の一つに県立図書館の渡辺館長においでいただいて話を聞いたことがあるのだけれども、そのときにこんなことを言われた。

図書館は、利用する人だけの施設ではない。と。

図書館を利用しない人にとっても意義のある役割は何かということを考えるべきだと言われた。その頻度として、市民の福祉の向上につながることを、民間では出来ないことということで考えていったらいいということと言われたのだが、興味を持ってもらったら、人間は自分がやりたい、好きだと思うことには、何とか時間のやりくりをして参加をしようとするが、そこにうまく引き込むことが出来ないかということを考えながら、結局何も出来なかった。

永岡委員 千々石町の公民館とか図書館の利用で、夏休みに寺子屋をやっていて、小学生を対象にして、婦人会の人たちとか、読み聞かせの方たちとかが一緒になって、夏休みの午前中にやってる、その取組は働いている親の人たちにとってはいい試みだなと思っている。

堀田生涯学習課長 こども講座ということで、夏休みに料理の講座を食改の方をお願いして、Y o u t u b eでその作り方をとり、受講の申し込みがあった方に作ってもらった。ほかの地域も7地区子ども向けの講座もやっている。

仁禮委員 Y o u t u b eの市の公式チャンネルを私も登録して見たりしている。

この間の愛野の講座で、水彩画とかがあって、まだ画像的には手作り感があって、今からまだ伸び代がありそうで楽しみにしているので頑張ってほしい。

前田教育長職務代理者 テニスコートの改修の件で、確かに補修をすると段差があって危ないのだけれど、もう少し段差がないようにできる業者は見つからないのか。

加藤スポーツ振興課長 国見の百花台公園のテニスコートが部分補修をされていた時期があり、その当時、吾妻のテニスコートをそのやり方でやったが、最初は目が詰まって継ぎ目もわからないようになっているが、時が経つと伸縮があるのか、間が少しずつ空いてくる。国見の県立の百花台公園がどうなっているのか確認に行ったら、あの施工は駄目だったということで、同じ現象が出て、早い段階で全部引き直されたような気がする。

市の方も、そういう経験があったので、部分補修はやめたいと思うが、なにせ予算がかかる。しかし、そのまま放っておいたら、人工芝がこすれて黒く下地が見えて滑ってしまう部分があるので、そうなるよりはもう部分的にさせていただこうということでやっている。

永岡委員 今テニスコートのことがあったので、数日前にテニスをしたのだが、相手の方が滑られて、一緒のパターンで2回滑られた。

そのコート自体が悪かったのか、それとも寒さで凍って滑られたのかは定かではないの

だが、2回一緒のところで滑るということは、コートにも何か原因があるのかなと思う。
修繕するのはすごく高額なお金がかかると思うが、検討よろしく願います。

加藤スポーツ振興課長 その施設はどちらか、どこの。

永岡委員 吾妻のコート。Cコート。

加藤スポーツ振興課長 現場の方を確認させていただく。考えられるのは芝が短くなって
る部分、もう一つ考えてるのは充填砂がコートサイドとか、ネットのところに集まる傾向に
あるので、砂が偏ってしまっているという2つの点がある。

下田教育長 施設の多さと、老朽化、同じような問題になっていくかと思うが、本来すべき
社会教育の推進であるとか、市民スポーツの推進に力が入れずに、施設の管理をする課に
なってしまったのではないかというのは、非常に心配してる。

それともう一つ、これだけたくさんの施設を抱えている中で、ほとんどの利用が、減免、ほ
ぼ施設の利用が減免になってる。もう少し今後は見直していかないと、市の財政のことも考
えていく必要があると思っている。

駒田委員 スポーツのことなのだけれども、子どものころからこれをやっていてよかった
なというのを一つでも見つけられれば、そして、やってよかったと何かの機会に役立てば1
番いいのだろうと思うのだが、今大事なのはスポーツをやってるなら、やってる人こそル
ールは守らないといけないと思う。

だからその時々でいろいろ変わっていくのもあるが、こういった施設の使い方に関するル
ールとか、指導方法とかいろんなことについては、やはり守るとというのが、スポーツ選手の
原則といつも思っている。

富永教育次長 予定の時間、今日は、教育行政の現状と課題ということで、総務課、学校教
育課、生涯学習課、スポーツ振興課の課題を議論いただいた。

これで議事を終了する。

その他、委員から何かあるか。

以上をもって、令和3年度第2回雲仙市総合教育会議を閉会する。

【11：08 閉会】